

広報

ただみ

11
2018 月号

No. 582
平成30年11月10日



今月の表紙

今月の表紙は、10月21日に開催した「全国ブナ林フォーラム」で、只見町の伝統芸能「小林早乙女踊り」を披露した明和小学校5年生の皆さんです。

明和小学校では、学校教育の中で地域に伝わる伝統芸能の継承に取り組んでおり、県の無形民俗文化財に指定されている「小林早乙女踊り」を、多くの来場者の前で披露しました。

(関連記事:P2~7)

《特集》

全国ブナ林フォーラム…………… 2 ~ 7

水の郷うまいもんまつり…………… 8 ~ 9

むし歯ゼロを目指す学校の取組み…10 ~ 11

《News&flash》…………… 12 ~ 15

《町の話》…………… 16 ~ 17



特集

ブナ林の保護・保全と持続可能な利用を通じた山間地域の未来を考える

只見町から発信「全国ブナ林フォーラム」

10月20～22日までの3日間、ブナ林の保護・保全と持続可能な利用を考える「全国ブナ林フォーラム」が只見町で盛大に開催され、全国から多くの方々が参加しました。

21日に季の郷湯ら里で開催されたフォーラムには、ブナ林を有する全国の自治体、住民団体が集い、ブナ林との共生や活用の取り組みに関する発表や提案がなされました。その前後日には、町内の観察の森で「ブナ林観察会」が行われ、只見町の自然環境について知識を深めました。

本号では、この「全国ブナ林フォーラム」について詳しくご紹介いたします。

― 全国フォーラム開催の

背景と目的 ―

この「全国ブナ林フォーラム」は、只見町と全国ブナ林フォーラム町民実行委員会の主催で、只見町の「自然首都・只見」宣言10周年を記念し、日本各地でブナ林の保護・保全とその持続可能な利活用を進める団体、個人を招いて、活動報告と意見交換、相互交流を図り、今後の在り方について検討していくために企画されました。

只見町は、「ブナと生きるまち 雪と暮らすまち 奥会津只見の挑戦 真の地域価値観の創造」を理念に、都市型生活・文化に追隨する



この自然を 活かし守る。

次世代へ引き継ぐ 「自然首都・只見」宣言――

▲10月22日に梁取の観察の森で開催されたブナ林観察会

ことなく、地域の伝統的な生活文化を抛り所に、独自の地域発展を目指す町づくりを進めてきました。

2007（平成19）年には、日本の自然の中心地である「自然首都・只見」宣言を行い、さらに2014（平成26）年にユネスコエコパークの登録を実現してきました。

登録後は、「只見ユネスコエコパーク」として、ブナ林などの自然環境や生物多様性を保護・保全しつつ、地域資源と伝統技術を活かした持続可能な地域の発展を目指した町づくりに取り組んでいます。

こうした山間地が取り組む地域振興のモデル地域として、今回「全国ブナ林フォーラム」を開催し、自然環境などの保護・保全と持続可能な利活用に向け、全国の方々と考える場を設けました。

全国ブナ林フォーラム

ブナ林の保護・保全と持続可能な利用を目指して



▲ブナ林の保護・保全と持続可能な利活用について討論したパネルディスカッション



▲報告に耳を傾ける来場者の皆さん



▲約 200 名が来場した全国ブナ林フォーラム

― 只見町から発信

全国ブナ林フォーラム―

ブナ林の保護・保全と持続可能な利用をテーマに開催された「全国ブナ林フォーラム」には、全国から約200名が参加しました。

開会にあたり、菅家町長は「全国のブナ林を抱える地域が一堂に会し、ブナ林の保護・保全と持続可能な活用を議論することで、地域の問題を解決する糸口になることを期待したい。そして、ブナ林と地域社会の将来を共に考え、その重要性をこの『自然首都・只見』から全国に発信していきたい」とあいさつし、環境省東北地方環境事務所の小沢晴司所長が祝辞を述べられました。

第1部では、新潟大学の紙谷智彦名誉教授による国内基調報告が行われ、新潟県魚沼市内で取り組む、ブナの利活用の実践研究（下記参照）などについて紹介されました。第2部では、只見町を含む、

- 国内基調報告 -



新潟大学名誉教授
紙谷 智彦 氏

「旧薪炭林で育ってきた

ブナを活かす」

「原生林構造の復元も

めざすブナ林業の取組み」

私は1980年代に薪炭林として利用されてきたブナなどの広葉樹が伐採後に自然再生する仕組みについて研究をしていました。当時の豪雪山間地は、半世紀前まで民有の広葉樹林が薪炭林として都市の家庭用エネルギーを支えていましたが、時代の流れとともに薪炭林としての利用はなくなり、多くのブナ林が放置されています。豪雪地だからこそ豪雪に耐えて成長するブナを林業樹種として活かすことができれば、集落の維持や地域経済に貢献できる可能性もあります。そこで、平成27年から新潟県魚沼市の委託を受け、大白川区で旧薪炭ブナ林を調査してきました。その間、数回

国内報告者

北海道



黒松内町
ブナセンター
学芸員
齋藤 均 氏
「北限のブナ林」

岩手県



花巻のブナ原生林に
守られる市民の会
事務局長
望月 達也 氏
「花巻のブナ原生林に
守られる市民の会」

長野県



いいやま
ブナの森倶楽部
会長
渡辺 隆一 氏
「北信濃におけるブナ
林の保護と活用」

徳島県



一般社団法人
かみかつ里山倶楽部
事務局長補佐
原田 寿賀子 氏
「ブナ林再生—徳島県立
高丸山千年の森」

宮崎県



綾町役場
照葉樹林文化推進
専門監
河野 耕三 氏
「九州のブナ林移行帯
付近の自然と生活」

福島県



只見町役場
地域創生課
ユネスコエコパーク推進係
中野 陽介 氏
「只見地域における
ブナ林と住民の関わり」



▲パネルディスカッションの司会を務めた
只見ユネスコエコパーク推進専門監の
鈴木和次郎氏

北は北海道黒松内町から南は宮崎県綾町まで、全国6カ所の自治体、住民団体の代表が、ブナ林の再生プロジェクトや持続可能な活用について、各地の取り組みなどを発表しました。只見町からは、只見町役場地域創生課の中野陽介副主査が、只見地域におけるブナ林と住民の関わりについて紹介し、「高度経済成長期を経る中で、地域住民とブナ林を含む自然との関係が変化しました。しかし将来を考えると、自然の恵みを受けながら生活してきたこれまでのように、今後とも豪雪とブナ林に代表される豊かな自然環境を抛り所に、共に生きていくことが重要」と述べ、これからのブナ林をはじめとする地域資源を活用した新たな取り組みについても提案しました。

第3部のアトラクションでは、明和小学校5年生による只見町の伝統芸能「小林早乙女踊り」が発表されました。児童たちは唄や太鼓、田

の試験伐採を行い、今年からブナを用材として活用しながら、かつての原生林の林相へ戻す新たな施業を始めています。区画単位でブナを伐採すると、ブナ林の中に異なる樹齢の集団がモザイク模様のように存在することになります。長期的にブナ林を活用し続けられ、いずれは原生林のような林相に誘導することができそうです。旧薪炭ブナ林を用材材林として活用しながら、かつての原生林に似た森林環境に戻せる可能性があるのです。伐採したブナ材の利活用をはかるために、民間の有志とともにスノーピーチ【雪国のブナ】という活動も行っています。山間地域がブナ林と共に将来的な維持・発展を目指すには、自然資源と地域住民との関係を断ち切るようなブナ林の保護・保全ではなく、ブナ林を守りつつも、持続可能な利活用を通してブナ林と人とが共に生きる視点が重要です。そのことが、ブナ林の保護であり、ブナ林に根差した地域の生活と文化を守ることなのです。



▲アトラクションで、只見町の伝統芸能「小林早乙女踊り」を披露した明和小学校 5 年生の皆さん



▲ブナの種子を集めるシードトラップなどを見学した樺戸観察の森



▲梁取の成法寺など町内の名所を見学した参加者の皆さん



▲梁取の観察の森を散策する参加者の皆さん

植えの様子などを表現した舞いを披露し、来場者を魅了しました。

第4部のパネルディスカッションでは、只見ユネスコエコパーク推進専門監の鈴木和次郎氏を司会に、報告者7名が「ブナ林の保護・保全と持続可能な利用」をテーマに討論を繰り広げました。討論では、「緑の回廊の整備がブナ林の保護につながる」との意見や、「観光客の受け入れによる自然環境のオーバーユースが課題。利用者を増やすことも大切だが同時にオーバーユース対策も必要」とのブナ林の活用への課題があげられました。最後に司会の鈴木氏が「山間地域の課題は高齢化。ブナ林の持続可能な利用で地域経済につなげていくことが重要である」とし、今回の討論であげられた課題について、「継続して議論を深める必要がある」と述べられました。

第5部では、「全国ブナ林フォーラム宣言」および「『自



長野県
いいやまブナの森
倶楽部
会長
渡辺 隆一 氏

「全国ブナ林フォーラム只見宣言(要旨)」

山間地域がブナ林と共に将来的な維持・発展を目指すには、自然資源と地域住民との関係を断ち切るようなブナ林の保護・保全ではなく、ブナ林を守りつつも、持続可能な利活用を通してブナ林と人々が共に生きる視点が重要です。そのことが、ブナ林の保護であり、ブナ林に根差した地域の生活と文化を守ることです。今まさにそうした取り組みに立ち上がるべき時と言えます。

守るべきところは守り、活用できるところは活用するのは当然ですが、守ることは一切手を付けないことを意味しませんし、活用する場合にも、将来世代への資源の持続性と自然環境、生物多様性への影響を考慮しなければなりません。そのこと

が、地域の自然と人間との共生、生活の持続性を確保する唯一の道です。

全国のブナ林を抱える地域社会、保護・保全に取り組む諸団体・個人がネットワークで結ばれ、情報を交換・共有し、活動で交流し、共にブナ林の保護・保全と地域住民の持続的な資源利用を図るため、活動を推し進める必要があります。ブナ林は、そこに生活する住民にとっての生活基盤であるばかりではなく、人類共通の財産です。私たちは、今回、福島県只見町で開催された全国ブナ林フォーラムを契機として、互いに連携し、「ブナ林を守り、育て、活用し、地域社会を守り、発展させる運動」に共に取り組むことを宣言します。

「自然首都・只見2018年宣言(要旨)」

2007年の「自然首都・只見」宣言は、只見町の自然を尊び、感謝するとともに、それを守り、次世代へと引き継ぐ決意表明でした。

この10年間、宣言を礎に、都市部の価値観に迫随せず、この地域の自然環境と生物多様性を守りながら、伝統文化と革新性の独自の融合・発展を目指すことこそ、唯一、地域社会が生き残る道であると確信することができました。

将来の只見町の維持・発展を実現するため、今後も「自然首都・只見」宣言を確実に引き継ぎ、過疎と高齢化という大きな課題はあるものの、独自の地域価値観と確固として自立した地域

社会を築く姿勢が私たち町民には求められています。そして、ここに暮らす私たち一人一人が地域の自然の守り手として、また、伝統的な生活・文化の継承者あるいは地域振興の担い手として着実に取り組み続けていくことも重要です。

「自然首都・只見」宣言10年を契機に開かれた全国ブナ林フォーラム開催にあたり、ここに集う只見町民、そして只見町を応援してくださっている町外者の方々の総意の下、改めて、「自然首都・只見」宣言の意義を確認し、その実現を図るための決意と覚悟をもって「自然首都・只見」の新たな10年に踏み出すことを宣言します。



只見町役場
地域創生課
主事補
斉藤 咲子 氏

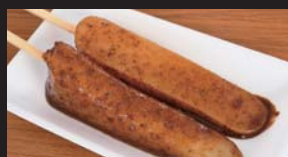
然首都・只見」2018年宣言」が行われました。「全国ブナ林フォーラム宣言」は、長野県のいいやまブナの森倶楽部の渡辺隆一会長が「ブナ林を守り、育て、活用し、地域社会を守り、発展させる運動」に共に取り組む」と宣言し、「『自然首都・只見』2018年宣言」は、只見町職員の斉藤咲子主事補が「ここに暮らす私たち一人一人が、地域の自然の守り手として、伝統的な生活・文化の継承者として、地域振興の担い手として、新たな10年に踏み出します」と宣言しました。両宣言は会場の大きな拍手によって採択されました。

このように、全国ブナ林フォーラムでは、これからのブナ林の在り方について考えを共有し、自然豊かな只見のフィールドでブナ林の重要性を学び、「自然首都・只見」からブナ林の保護・保全と持続可能な利用の必要性を全国に発信しました。

JR只見線で2つの企画列車が運行

自然首都
只見
Topic

「水の郷うまいもんまつり」開催！



▲町内のほか、金山町、三島町、喜多方市、会津若松市、新潟県三条市、魚沼市、新潟市からご当地グルメが集まった会場

「うまいもんまつり」

10月6・7日の2日間、町内外の多彩な食が楽しめる「水の郷うまいもんまつり」がJR只見駅前で開催され、2日間で約3000人が来場しました。

会場では、只見町内のほか会津地方と新潟県の8市町村のご当地グルメなどが出店し、只見町の手打ちそばやマトンケバブ、金山町の赤かぼちやスープ、新潟県三条市の豚串焼きなどが販売されました。米焼酎ねっか、岩泉、泉太のどぶろくが味わえる地酒試飲ブースも設けられ、多くの来場者が舌鼓を打ちました。

イベントでは、新潟プロレスショーや鏡五郎歌謡ショー、ブナりんのテーマソングを歌う松下恵美さんのステージが催され、町内の方々による日本舞踊やコーラスなども披露されました。初日のラストには花火大会も行われ、来場者は食とイベントを堪能しました。

JR只見線を応援

2つの企画列車が運行

10月6日、JR只見線において、新潟県魚沼市観光協会が主催する「第2回只見線列車内プロレス」と福島県が主催する「第2回只見線企画列車」が運行され、両企画あわせて約100名が参加しました。これは、只見線の復興応援を目的に企画されたもので、「うまいもんまつり」の開催にあわせて運行されました。

只見線列車内プロレスは、何度倒れても立ち上がるプロレスラーと、復旧に向けて立ち上がる只見線を重ねて企画されているもので、越後須原駅と只見駅間を臨時列車が往復運行しました。参加者は、行きは車内でプロレス観戦し、うまいもんまつりでプロレスショーなどを楽しみ、帰りはよしもと芸人のお笑いショーを観覧しました。プロレスショーでは只見線募金活動が行われ、約3万8千円が集まりました。



▲来場者を熱狂させた新潟プロレスショーと声援をおくる子どもたち



▲見事な歌唱力で盛り上げた鏡五郎さん



▲大好きなブナリんと一緒に触れ合う子どもたち



▲素晴らしい演奏と歌を披露した只見音研コンサート



▲ブナリんと一緒に「ブナリんのうた」を披露する松下恵美さん



▲子どもたちに大人気だった岩魚つかみ大会



▲音を録音・再生できるループマシンを使った渡部美依さんのライブ



▲オリジナル曲などを披露した高校生アーティスト大竹涼華さんのライブ



▲見事な演奏を披露した「長浜女子和楽坊」の皆さんによるスコップ三味線



▲大黒舞が披露された車内



▲プロレスショーが行われた車内

また、只見線企画列車では、郡山駅を発着点に運行され、バスによる不通区間などの見学と只見駅から越後須原駅間の只見線乗車体験が行われました。只見駅ではうまいもんまつり会場を訪れ、多くのグルメを堪能し、只見線乗車体験では、車内で只見町民による大黒舞などが披露され、多くの乗客を楽しませていました。



スローガン

「家族で行こう 定期検診」 ～白い歯と 自然を守る 只見町～

▲砂時計で時間を計りながら給食後の歯みがきをする児童たち



▲歯科教室で講話する歯科衛生士



▲委員会児童による歯みがきチェック

只見町の児童・生徒のむし歯ゼロを目指して！ 小中学校が実践する 「歯と口の健康を守る」取り組み

11月8日は「いい歯の日」です。

只見町では歯と口の健康増進のために、日々様々な活動を実施しています。

本号では、町内小中学校が実践する児童・生徒の「歯と口の健康を守る」取り組みをご紹介します。

Ⅰ. 各学校の取り組み

① 歯科教室

町内の小・中学校では、6月頃に歯科衛生士による歯科教室を実施しています。「6歳臼歯について」「歯によい食べ物」「むし歯のできかた」「歯の外傷と応急処置」など、児童生徒の発達段階にに応じて、丁寧で分かりやすい指導と歯の汚れを視覚化できる染め出しで、歯の大切さと歯みがきの重要性を再認識していきます。

実践した子どもたちからは、「赤いところをこれから

はもつと丁寧にみがきます！」

「なるべくかたいものを食べた

いです！」など意識の向上が

見られる感想がたくさんあ

り、参観した保護者からも、

家庭での丁寧な歯みがきの継

続や親による仕上げみがきの

重要性についてのコメントが多

くみられました。

Ⅰ. 各学校の取り組み

② 委員会活動



▲染め出しによるみがき残しを確認する生徒



▲歯みがき体操の音楽に合わせて歯みがきをする児童



▲学校歯科医による歯科検診



▲児童たちに正しいみがき方を指導した歯科教室



▲委員会児童による模型を使用した発表

7月に行われた只見町小中学校合同学校保健委員会では、児童生徒の健康課題である「う歯（むし歯）」に焦点を当て、協議しました。

幼・小・中・高、そして保護者や地域の関係機関との連携を大切しながら、むし歯予防が必要不可欠であり、丁寧な歯みがきの習慣化・定期的な歯科受診で口腔内の健康を保持増進していくことが重要であることを再確認し、スローガンも掲げています。

児童が各学級を回って歯みがきのポイントを教えたり、しっかりとみがいっているかパトロールをしたり、劇を発表したりと楽しく行っています。中学校でも目を引くような歯みがき啓発ポスターの作成や歯ブラシチェックなど主体的に活動しています。

「平成30年度福島県学校歯科保健優良校表彰」は、歯科保健活動を通して児童生徒の歯が健康に守られ、その取り組みが認められた学校に贈られるもので、今年度も学校歯科医の先生をはじめ、歯科衛生士や保護者の方々の連携により、町内全ての小・中学校が受賞しました。町内全ての小・中学校の受賞は、これで4年連続となり、これまでの活動の成果が表れていると言えます。

Ⅲ. 県学校歯科保健優良校表彰

「平成30年度福島県学校歯科保健優良校表彰」は、歯科保健活動を通して児童生徒の歯が健康に守られ、その取り組みが認められた学校に贈られるもので、今年度も学校歯科医の先生をはじめ、歯科衛生士や保護者の方々の連携により、町内全ての小・中学校が受賞しました。町内全ての小・中学校の受賞は、これで4年連続となり、これまでの活動の成果が表れていると言えます。

これからも只見の将来を担う子どもたちが、健康でたくましく育つ環境を守るために、地域全体で歯科保健活動を推進していきます。

（監修）只見町小中学校

合同学校保健委員会

「第48回 只見町小学校体育交歓会」開催

9月28日、町内各小学校の親睦と交流を深める陸上競技「小学校体育交歓会」が町下運動広場で行われ、只見・朝日・明和小学校の5・6年生約70名が参加しました。

大会では、朝日小6年の岩佐乃杏さんが100m、走り幅跳び、リレーの3種目で優勝し、見事3冠に輝きました。また、男子80mハードルでは、朝日小6年の渡部悠行くんが14秒7という大会タイ記録で優勝しました。

参加した児童全員が練習の成果を発揮し、素晴らしい活躍を見せていました。大会の入賞記録は下記のとおりです。



▲3冠に輝いた朝日小・岩佐乃杏さん(右)の100m決勝



▲大会タイ記録で優勝した朝日小・渡部悠行くんのハードル



▲走り高跳びで優勝した明和小6年の飯塚妃さん



▲1000mと走り高跳びで優勝した只見小・五十嵐零生くんの1000m走

第48回 只見町小学校体育交歓会 入賞記録一覧表(3位まで)※敬称略

	種目	1000m(男子) 800m(女子)	100m	80mハードル	4×100m リレー	走り幅跳び	走り高跳び	ソフトボール投げ
男 子	1	五十嵐 零生(只・6) 3分37秒2	新國 蒼空(只・6) 14秒6	渡部 悠行(朝・6) 14秒7(大会タイ)	明和A 1分02秒5	新國 蒼空(只・6) 405cm	五十嵐 零生(只・6) 122cm	横山 敬都(明・5) 55m25cm
	2	平野 奏汰(明・6) 3分44秒0	横山 敬都(明・5) 15秒1	目黒 琳太郎(明・6) 15秒0	只見A 1分04秒2	渡部 琉生(朝・5) 366cm	平野 奏汰(明・6) 115cm	目黒 悠斗(朝・6) 52m7cm
	3	印南 奏詩(明・5) 3分51秒9	渡部 琉生(朝・5) 15秒3	酒井 駿(明・6) 15秒2	朝日A 1分04秒9	目黒 咲翔(朝・6) 345cm	渡部 悠行(朝・6) 113cm	酒井 駿(明・6) 43m98cm
女 子	1	齋藤 椿(只・6) 3分00秒1	岩佐 乃杏(朝・6) 15秒2	橋川 彩希(明・6) 16秒4	朝日A 1分05秒0	岩佐 乃杏(朝・6) 355cm	飯塚 妃(明・6) 115cm	山内 ひかり(明・6) 39m9cm
	2	梁取 瑠奈(朝・6) 3分05秒6	松永 佳音(只・6) 15秒4	吉津 滯里(朝・6) 16秒5	只見A 1分06秒2	矢沢 実優(明・5) 313cm	吉津 滯里(朝・6) 110cm	新國 夢萌(只・5) 38m41cm
	3	三瓶 咲季(朝・6) 3分11秒9	矢沢 実優(明・5) 15秒7	酒井 麗(只・5) 16秒7	明和A 1分07秒4	松永 佳音(只・6) 305cm	酒井 麗(只・5) 105cm	渡部 美空(朝・6) 33m16cm

※氏名(学校名・学年)です。なお、学校名は只／只見小学校、朝／朝日小学校、明／明和小学校の略です。

町内外の43チームがタスキをつなぎゴールを目指す 第56回 只見町駅伝競走大会



▲午前10時、役場駅前庁舎前を43チーム一斉にスタートする選手の皆さん



▲沿道からの声援に応えるジャンク・スキーヤーの道山健さん

10月14日、只見町と只見町体育協会が主催する「第56回只見町駅伝競走大会」が行われ、町内外から43チームが参加し、1本のタスキをつないでゴールを目指しました。今大会は、「只見町役場駅前庁舎」前県道を発着点に長浜・亀岡・小林地区を折り返す3コースで開催されました。

開会式で鈴木好行体育協会会長は「今年は全43チームの参加があり、多くが町外のチーム。大会を盛り上げていただき感謝いたします。それぞれ目標に向かって頑張ってください」と挨拶され、午前10時に43チームが役場駅前庁舎前を二斉にスタートしました。

大会の成績とレースの模様は、次のとおりです。



▲タスキをつなぐ只見町駅伝部男子チームの山内太喜選手と横山皓大選手

大会成績(上位3位まで)

◆中学生男子の部

- 1位 若松第四中学校
- 2位 南会津中学校A
- 3位 只見中学校駅伝部男子

◆中学生女子の部

- 1位 若松第四中学校
- 2位 只見中学校駅伝部女子

◆一般女子の部

- 1位 南会津高校B
- 2位 うるわし☆レディース
- 3位 南会津高校バレー部

◆男女混成の部

- 1位 金山ランニングクラブ
- 2位 JA会津よつば坂下
- 3位 坪井ランナーズ

◆一般男子の部

- 1位 会津中央病院Aチーム
- 2位 南会津高校A
- 3位 荒海ロングランクラブ

大人気の「とん汁」コーナー



▲美味しいとん汁を振る舞った食改、只見ランナーズの皆さん



▲仮装しながらゴールし大会を盛り上げたJA会津よつば高田支店チームのアンカー・佐瀬理衣選手

福島県畳工業組合南会津支部が

町内の保育所に畳20枚を寄贈

10月2日、福島県畳工業組合南会津支部長の室井秀明さん（株室井畳店装飾センター・南会津町）と同組合に加盟する赤塚保夫さん（赤塚畳店・長浜）が明和保育所を訪れ、半畳の畳20枚を寄贈されました。

これは、9月24日の「畳の日」に合わせ行われたもので、畳離れが進む中、畳の良さを再確認してもらうことを目的に贈られました。

同保育所に畳を届けた室井さんと赤塚さんは「小さいうちから畳に親しみ、畳の良さを覚えてほしい」と話しました。畳は町内3保育所で活用される予定です。



▲畳を贈呈した室井さん（後列左）と赤塚さん（同右）と明和保育所さくら組の園児たち

本格的な演劇を鑑賞

只見町「家庭劇場」を開催

10月2日、「只見町家庭劇場」が只見中学校体育館で開かれ、町内の保育所園児や小学校児童、町民など約300名が鑑賞しました。

これは、本格的な舞台芸術に親しむために教育委員会が開催しているもので、今年は東京都から劇団エンゼルの方々が「はじめに見えたもの」という演目で公演されました。

公演は、野良犬の主人公ククと目の見えない花売りの少女ミミを描いたストーリーで、笑いあり涙ありの舞台を鑑賞した児童からは「ククとミミが最後に出会えたところが感動した」との声が聞かれました。



▲本格的な舞台を鑑賞することができた家庭劇場

各小・中学校の連携を深める

町内3小学校「合同授業」開催

10月11日、来年度中学校に進学予定の町内3小学校6年生42名を対象とした「合同授業」が只見中学校で行われました。これは、各小学校の横のつながりや小・中学校の円滑な連携を深めるとともに、進学する児童の戸惑いや不安を軽減することを目的に、町教委と町小中学校長協議会が初めて企画しました。授業は、只見中の遠藤学先生と朝日小の木戸裕治先生による数学の基礎的な授業が行われ、児童たちはグループになって学んでいました。参加した児童は「苦手な算数も楽しく学べた。中学校ではみんなと楽しく学校生活を送りたい」と話していました。



▲修学旅行や体育交歓会以外では初となる3小学校合同の授業

隊員目線で只見町を考える

地域おこし協力隊と意見交換会

10月11日、町内で活動する6名の地域おこし協力隊との意見交換会が役場で行われ、隊員5名と町関係者9名が出席しました。

意見交換会では、橋本副町長が「これまで活動してきた隊員の目線で忌憚のないご意見を頂戴したい」とあいさつし、続いて観光・教育分野で活動する隊員から、インバウンド受入体制整備やキャンプ場などの誘客・整備、高校生を対象にした学習塾や高校振興対策などの活動報告がそれぞれ行われました。報告後は、活動での問題点や只見町の生活などに関して、活発な意見交換が行われました。



▲活発な意見交換を行った隊員（左列）と関係者（右列）の皆さん

危険予測をトレーニング 小林サロンで「体験型交通教室」



▲危険予測の判断や詐欺被害防止などについて学んだ小林サロンの交通教室

10月16日、小林地区の65歳以上の地域住民が気軽に集い活動する地域づくりサロン事業「小林サロン」で体験型交通教室が開かれ、約30名が参加しました。これは、明和駐在所と小林サロンが連携して企画したもので、県警本部交通企画課の職員2名を講師に迎え、郡内で初となる「危険予測トレーニング装置」を活用した交通教室が行われました。参加者は、車の運転映像を見ながら危険と感じた場面でもコンのボタンを押して危険予測の判断を養い、講師からは「運転者も歩行者も広い視野で危険を早く察知することが重要」と伝えられました。

戊辰150周年記念事業 「八丁沖ウオーク参加ツアー」開催



▲秋晴れの八丁沖を巡った参加者の皆さん

10月13日、新潟県長岡市の八丁沖ウオークに、只見町民15名が参加しました。これは、奥会津只見戊辰150周年記念事業実行委員会が主催したツアーで、長岡市と歴史交流を目的に実施したものです。八丁沖ウオークでは、戊辰戦争時に河井継之助が長岡藩士を率いて大沼沢地だった八丁沖を渡河し、長岡城を奪還した当時のルート約6kmを地元ガイドの説明を受けながら長岡市民などと歩きました。ウォーク後は、長岡市河井継之助記念館を見学し、参加者は河井継之助や歴史について理解を深めていました。

町制施行60周年記念事業に向け 「企画運営委員会」を開催



▲企画運営委員会であいさつする菅家町長

昭和34年8月1日に町制が施行され、平成31年に満60年を迎える只見町では、町内各団体及び町職員による「町制施行60周年記念事業企画運営委員会」を組織し、記念事業の実施に向けてスタートしました。この記念事業は、町民の方々と共にこれまでの歩みを振り返り、さらなる町政の伸展を願い開催するもので、町民の方々の意見や提案を反映するため9月7日からこれまで2回の企画会議を開催しました。10月17日の第2回会議では、町民の方々から寄せられた記念事業アイデアについて検討しました。

夫婦で築いた半世紀を称える しあわせ金婚夫婦表彰



▲謝辞を述べる菅家玄己さん、ツヤさんご夫妻

10月24日、福島民報社と県老人クラブ連合会が主催する「しあわせ金婚夫婦表彰式」が季の郷湯ら里で行われ、町内20組の夫婦が金婚表彰を受けました。表彰式では、角田睦町老人クラブ連合会長が「この表彰を機に夫婦共々長生きし、地域社会に貢献してください」とあいさつし、菅家町長と小池誠福島民報社南会津支局長とともに、町内3地区の代表に表彰状などを手渡ししました。金婚夫婦を代表し菅家玄己さん、ツヤさん夫妻が「これからも町の発展のために尽くしたい」と謝辞を述べられました。

児童・生徒が日ごろの学習の成果を発表

各小中学校で「学習発表会・紅葉祭」を開催

10月20日に各小学校「学習発表会」と10月28日に只見中学校「紅葉祭」がそれぞれ開催され、児童・生徒の日ごろの学習の成果が発表されました。各小学校では劇や合唱、ダンスなどが披露され、中学校では英語弁論発表や総合学習発表、合唱や有志発表などが披露されました。練習の成果を発揮した児童・生徒の素晴らしい発表に、会場からは大きな拍手が贈られていました。



▲日本各地の伝統的な踊りを披露した只見小6年生の皆さん



▲ハンドベル、合唱、ダンスを披露した朝日小6年生の皆さん



▲「八十里の過去と未来」という発表劇を披露した明和小学校6年生の皆さん



▲「瑠璃色の地球」「手紙」の2曲を披露した只見中3年生の合唱



▲好成績を収めた只見剣道スポーツ少年団の皆さん

戊辰150周年！各地の剣士集う 河井継之助杯只見剣道大会

10月21日、今年で4回目となる「河井継之助杯只見剣道大会」が町民体育館で開催され、町内外から113名・34チームの小中学生剣士が参加しました。

大会では、只見小6年生の渡部有希人さんが選手宣誓を行い、会場内では熱戦が繰り広げられました。また、恒例の小学6年生による河井継之助記念館見学交流会も行われ、歴史を知り親睦を深める大会となりました。優勝者は以下のとおりです。

個人	若葉(未防具)	共通	只見剣道スポ少	齋藤充希	団体	1部 (小5・6)	只見剣道スポ少A
	小4以下	男子	会津白虎剣士会	平野 昊		2部 (小4以下)	会津白虎剣士会
		女子	只見剣道スポ少	目黒夏穂		3部 (中学生)	只見剣友会
	小5・6	男子	伊南武道館	山内一生			
		女子	伊南武道館	小杉美菜			
	中学生	共通	只見剣道スポ少	新國太陽			

第12回市町村対抗福島県軟式野球大会 只見町代表チームがベスト16!

県内59市町村の頂点を目指す「第12回市町村対抗福島県軟式野球大会」が行われ、昨年ベスト4のシードとして大会に挑んだ只見町代表チームが「ベスト16」という結果を収めました。9月22日、鏡石町(2回戦)との初戦は、序盤に主導権を握った只見町が投打で圧倒し、見事8対1の6回コールドで勝利しました。続いて、9月30日の郡山戦(3回戦)は、初回に連続安打で出塁するも得点に結びつけることが出来ず、打線がつながった郡山市に0対7で5回コールド負けとなりました。ベスト16という成績を残した只見町チームの来年の飛躍に期待です。

▶ 鏡石町戦で3塁打を放ちガッツポーズを見せる横山剛嗣選手



▲只見町代表として大会に挑んだ選手の皆さん



◀ 広野町戦で打席に立つ酒井俊夫選手

第5回市町村対抗県ソフトボール大会 投打噛み合い悲願の初勝利!

10月13日、第5回市町村対抗県ソフトボール大会が相馬市のソフトボール場で開幕し、只見町代表チームが初勝利をあげました。互いに初勝利をかけて挑んだ広野町戦(1回戦)は、只見町が1回に3本の三塁打などにより一挙4点を奪い、有利に試合を進めました。投げては、長谷川佑樹選手が被安打2、1失点と好投し、投打が噛み合った只見町が見事8-1でコールド勝ちを収めました。続いて、10月20日に行われた石川町戦では、序盤の大量失点が響き、残念ながら0-10で4回コールド負けとなりました。今大会初勝利を収めた只見町チームの更なる活躍が期待されます。



▲初勝利を飾った只見町代表チームの選手の皆さん

「ただみ豪雪林業体験・観察の森」で 森林整備ボランティア活動を実施

10月5日、黒谷区の「ただみ豪雪林業体験・観察の森」で森林整備ボランティア活動が行われ、本事業に協力する野村総合研究所グループ社員43名と町内ボランティア4名が参加しました。この観察の森は、豪雪地帯に適応した林業モデル地として、森林管理技術の開発や環境教育などを目的に設置されており、今回は林内で除間伐されたスギ材を活用した薪作りが行われました。作業は玉切り、丸太の運びだし、薪割りを体験し、参加者は作業に汗を流していました。



▲機材を使って薪割り作業を行う参加者の皆さん

10月から新しい看護師さんが着任しました！

10月1日から4ヶ月間、朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の中山美奈さんです。中山さんは、小さい頃から看護師になりたいと思い、学生時代の職場体験がきっかけで本気で目指すようになりました。学生時代は、小学校4年生から高校3年生までソフトボールに向き合い、ピッチャーとして活躍されました。朝日診療所に着任してからは、外来が初めてということもあり、毎日が勉強になるそうです。「憧れる先輩のように、先を見て行動できる機転の利いた看護師になりたい」と話す中山さんをどうぞよろしくお願い致します。



中山 美奈さん
(出身／南会津町田島)

広報ただみ診療所

朝日診療所

所長 若山 隆



「インフルエンザワクチンについて」

皆さんこんにちは！今月はインフルエンザについてお話します。今年は10月初旬から会津若松などでインフルエンザ患者が散発するなど、例年に比べ流行が早い兆しがあります。対策は何よりもインフルエンザにかからないことが大切です。手洗い、うがいなども大切ですが、最も予防効果が高いのはワクチンです。効果は研究によりばらつきがありますが、50～80%でインフルエンザを減らしてくれます。少なめに効果を見積もってもインフルエンザにかかる確率を半分以下にしてくれるということですね。また、合併症としての肺

炎を減らす効果もあり、生後6か月以上の全ての人に勧められています。重症化しやすいとされる妊婦の方や65歳以上の方、感染が広まりやすい児童・学生などにお勧めです。ワクチンを希望する方は、あさひヶ丘での集団接種で受ける方法と、朝日診療所に予約し個別で受ける方法があります。集団接種は、地区別実施するため、下の表を参考にしてください(都合が悪い場合は他の日・時間に変更可)。個別接種は、必ず朝日診療所に午後1時30分～午後3時までに電話予約(Tel84-2220)するよう、お願いいたします。

あさひヶ丘の集団接種

	午後1時30分～	午後2時～	午後2時30分～	午後3時～
11/5	宮淵・上町・原	田中・宮前	只見沖・新屋敷	新町・八木沢・叶津・入叶津
11/12	蒲生・寄岩・塩沢・十島	館ノ川・黒沢・黒谷入・黒谷沖根木沢	蓮の原	黒谷町
11/19	上福井・下福井	栖戸・荒井原・肘折	小川・荒島	熊倉・亀岡・深沢
12/5	長浜・梁取	小林・塩ノ岐・二軒在家	大倉	坂田・布沢

地域おこし協力隊として vol.48

只見町山村振興協力隊

ふじぬま こうへい

藤沼 航平



「移住の心得」

只見に住んで、早くも2度目の紅葉の時期を迎えました。そんな折に、只見町駅伝競走大会に明和青年団チームで参加させていただきました。今回は補欠のため実際に走ることはなかったのですが、選手のサポートと各区間での応援に回りました。どの区間でも沿道からの声援に溢れ、自分のチームだけでなく町外から参加してくれた選手にまで応援をとばす。選手たちはその声を力に変えタスキを繋ぐ。見知った方が増えた今、大会中、コースを走ってない私に

まで声をかけてくださる方も大勢いました。

よく「会津の三泣き」と言いますが、確かにはじめは只見の方のとっつきにくさは大いに感じました。しかしながら、こういった祭りや集まりには外部の人にも気軽に声をかける。慣れてくると色々と世話を焼いてくれる。

そこにたどり着くまでに時間はかかりますが、それが会津地方での、只見町での、移住の肝であり、これから移住されてくる方への心得として伝えていきたいと思っています。

町史

とっておきの話

292

国立科学博物館
分子生物多様性研究資料センター

吉川 夏彦
よしかわ なつひこ

カエルとサンショウウオの楽園・ただみ

只見町のサンショウウオ①

池や湿地にすむ仲間

▼今月号からの執筆者は、タダミハコネサンショウウオを新種として記載された吉川夏彦さんです。日本産ハコネサンショウウオの系統分類をすすめ、新たな種を次々に発表されている新進気鋭の研究者です。どうぞ、只見の両生類の世界をお楽しみください。



▲産卵期のクロサンショウウオのオス(南相馬市)



▲写真上はクロサンショウウオの卵嚢、矢印はトウホクサンショウウオの卵嚢(石伏)

只見町は豊かな森林と水に恵まれ、山の溪流や湧水、人の営みが作り出す水田や池など、水場環境の種類も多様です。そのためカエルやサンショウウオなどがとても多く、彼らにとっては楽園と言っている場所です。田んぼや溪流ではたくさんのカエルが鳴き、オタマジャクシが泳いでいるのを見ることがあると思います。その一方でサンショウウオの仲間

エルのように鳴くこともないので影が薄い存在ですが、ひっそりと、しかし確かに只見の自然の中に息づいています。

サンショウウオ類はカエルなどと同じ両生類の仲間で、長い尾があることから有尾類と呼ばれます。只見町には5種の有尾類が生息しており、イモリ科のアカハライモリとサンショウウオ科のクロサンショウウオ、トウホクサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、そして二〇一四年に只見町で発見されたタダミハコネサンショウオが知られています。アカハライモリは本州・四国・九州に広く生息し、只見ではガモリとも呼ばれて田んぼや池などでよく見られます。お腹が赤く目立つので印象に残っている方も多いのではないのでしょうか。アカハライモリは体に毒を持つており、目立つお腹は鳥などの天敵に毒があることを記憶させるための目印になります。イモリを食

べようとしてひどい目にあつた鳥は、次から赤いお腹のイモリを避けるようになる、という寸法です。この毒は人が触つてもほとんど害はありませんが、触れた手で目や鼻を触ると激しくしみるがあります。触つたら必ず手を洗いましう。

クロサンショウウオは北陸地方以北の本州に分布する比較的大型の種類で、全長15cmほどになり、体つきもがっしりしています。4〜5月の雪解けの頃、池や湿地の少し水深のある場所に沈んだ枝や草に、白くて丸いやわらかい卵嚢(卵の入った袋状のもの)を産みつけます。春の山の中、雪解け水が溜まった水たまりではこの白い卵嚢がよく目立ちます。この卵嚢の中には70個ほどの卵が入っていて、孵化した子ども(幼生)は池の中で成長し、多くは夏の間に変態・上陸して森の地面で陸上生活を始めます。イモリとは違い、サンショウウオ科の仲間は成熟すると繁殖期以外は水に入ることはほとんどありません。狭い水場で生活するクロサンショウウオの幼生は共食いが非常に激しいことが知られており、共食いを始めた幼生は頭部が巨大化し、より共食いしやすい形(共食い型)に変化します。仲間

間の幼生を食料にしても急速に成長し、水場が干上がる前に上陸して生き残るための戦略の一つだと考えられます。春には雪解け水が豊富な水溜りも、夏には徐々に水が減って干上がってしまうことがあります。そういった不安定な水場は魚などの天敵が少ない反面、早く上陸しなければ乾燥死してしまう危険もある場所なのです。

トウホクサンショウウオは北関東以北の本州に分布し、やや小型で全長は10〜13cm程度になります。茶色っぽい地味な色をしています。体に白い細かな斑点を持つ霜降模様の美しい個体もいます。4〜5月頃に溪流のよどみや湧水の溜まり、水田の水路など比較的小規模でゆるやかな流れのある水場の石や倒木の裏に、20〜50個程度の卵が入った卵嚢を産み付けます。卵嚢は細長くコイル状に渦を巻いていて、表面には縦のしわがあるのが特徴です。本種は冷たく安定した水場を好み、「越冬幼生」となって翌年の春まで上陸せずに水中に留まるものも見られます。クロサンショウウオほど共食いは激しくはありませんが、ヒレや指が欠けている個体がよく見られます。

只見短歌会

九月詠草

大塚栄一

指導

久びきにこほろぎの声厨まで灯りを消してしばし佇む

馬場 八智

只見での在職中は温かき多くの人に感謝しきれず

飯島小百合

見学のバスに乗りつつ雄大な山間抜ける八十里越

関谷登美子

病院にて同級生と久に逢ひ長病む夫の介護愚痴合ふ

渡部ゆき子

先輩の歌集を読みわが未熟ことさら思ふ秋深き夜に

新国由紀子

花殻を摘みし効果か白桔梗季節外れに未だ咲きつぐ

目黒 富子

秋晴れにひと日稲刈りつくづく歳追ふごとに身体疲るる

渡部ヨリ子

秋祭り心はづみて家の前子供みこしに手拍子送る

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

十月例会

目黒十一

指導

顔出せば香り部屋充つ茸飯
秋仕舞切るには惜しい葉鶏頭

一 穂

秋の田に蟻のごとくにウオーキング
病む友の声密やかに秋の暮れ

信

秋空や村すつぽりと包みおり
鍬の音しずかに続き秋近し

修 一

秋彼岸ついで口に出すヨツコラシヨ
声かけて声かけられて稲田道

都

亀虫や気配を察し歩み止め
あるじなき庭に咲きおりわすれな草

敦 子

闇夜にも白き景色のそばの花
夜長かなまた一冊を読み耽る

味代子

青空や馥郁として綿の花
送迎車下りるに釣瓶落しかな

吉 児

つるもどき夫の手たわわ畑みやげ
夕霧や吸われる如く友逝きし

弘 子

あきつしま台風遅速ありにけり
浅漬けを食む音ふたり秋深む

幸 生

水音の届く限りを葛の花
午後の日に均し返せり豆莢

礼

今月の お知らせ

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎ 82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎ 82-5220
町民生活課	
税 務 係	☎ 82-5110
町 民 係	☎ 82-5100
保健福祉課	
保 健 係	☎ 84-7005
福 祉 係	☎ 84-7010
農林建設課	
農林係	☎ 82-5230
建設係	☎ 82-5270
観光商工課	☎ 82-5240
観光係 商工係	
会 計 室	☎ 82-5120
議会事務局	☎ 82-5300
農業委員会	☎ 82-5230
教育委員会	☎ 82-5320
学校給食センター	☎ 84-7180
只見保育所	☎ 82-2219
朝日保育所	☎ 84-2038
明和保育所	☎ 86-2249
朝日診療所	☎ 84-2221
(歯科)	☎ 84-2612
こぶし苑	☎ 84-2101
只見振興センター	☎ 82-2141
朝日振興センター	☎ 84-2111
明和振興センター	☎ 86-2111

税 今月の納期

11月26日までに
納めましょう

- 町県民税(3期)
- 国民健康保険税(5期)
- 農集排使用料(11月分)
- 介護保険料(5期)
- 後期高齢者保険料(4期)

お知らせ

全国二斉の強化週間 「女性の人權ホットライン」

福島県地方事務局と福島県人権擁護委員連合会は、11月12日(月)から11月18日(日)までの7日間、全国一斉「女性の人權ホットライン」強化週間として、夫・パートナーからの暴力やストーカーなど女性をめぐる様々な人權問題の解決を図るため、電話相談の取り組みを強化します。相談は人権擁護委員および法務局職員が応じ、秘密は守られますので、お気軽にご相談ください。

なお、強化週間の期間以外の日(土・日・祝日を除く)においても、午前8時30分から午後5時15分まで、相談に応じていますので、ご利用ください。

● 期間

11月12日(月)～18日(日)

● 受付時間

午前8時30分～午後7時まで
※11月17日(土)～18日(日)は
午前10時～午後5時まで

● 相談専用ナビダイヤル

☎ 0570(070)810

● 問合せ先

福島県地方事務局人権擁護課
☎ 024(534)1994

「第70回人權週間」 電話相談の実施について

法務省人権擁護局と全国人権擁護委員連合会では、12月10日(世界人權宣言採択日)の「人權デー」を最終日とする1週間で「人權週間」と定め、この日を中心として、積極的な啓発活動を実施することを申し合わせています。

そこで、福島県地方事務局と福島県人権擁護委員連合会では、12月4日から10日までを「第70回人權週間」とし、当該週間を中心に積極的な啓

発活動および相談活動を行います。また、人權週間に限らず電話相談を実施していますので、悩み事がありましたら次のダイヤルにお電話ください。相談は人権擁護委員および法務局職員が応じ、秘密は守られますので、お気軽にご相談ください。

● 相談専用ナビダイヤル

・ みんなの人權 110番
☎ 0570(003)110

・ 子どもの人權 110番
☎ 0120(007)110

・ 女性の人權ホットライン
☎ 0570(070)810

※年末年始を除く平日
午前8時30分～午後5時15分

「パソコン甲子園2018」 を開催します

パソコン甲子園は、コンピューターに興味のある全国の高校生などを対象に、会津大学で開催されるICT分野の全国大会です。競技は「プログ

ミング部門」などの3部門があり、次のとおり本選が開催されます。入場は無料で、どなたでも観戦できますので、是非おいでください。

● とき

11月17日(土)～18日(日)

● ところ

会津大学

● 内容

① プログラミング部門競技
17日(土)午後1時45分～

② モバイル部門競技
18日(日)午前9時～

③ いちまいの絵CG部門競技
入選作品の展示

④ 併催イベント
18日(日)午前8時45分～

プログラミング教室(事前予約制)
や会津大学サークルによるVR・ゲームなど無料で体験。詳しくはお問合せください。

● 問合せ先

全国高等学校パソコンコンクール

実行委員会事務局会津大学内
☎ 0242(37)2532
家計とお金の悩みに関する
無料相談会を開催します

財務省福島財務事務所では、専門相談員が、借金を抱えお悩みの方から家計や借金の状況などをお伺いし、必要に応じて弁護士などの専門家に引き継ぎを行う相談会を開催します。まずは一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

● とき

12月18日(火)

午後1時～午後5時

● ところ

※原則予約制・予約締切12月17日
会津地方振興局(県会津若松合同庁舎 別館2階会議室)

● 予約・問合せ先(平日のみ)

財務省福島財務事務所 理財課
☎ 024(533)0064

ビーチバレーコートの新しい活用で健康増進を図る

「只見スポーツパーク交流事業2018」開催

8月から10月までの期間、ただみコミュニティクラブが主催する「只見スポーツパーク交流事業2018」が亀岡ビーチバレーコートで開催され、町内外から多くの方々が参加しました。これは、ビーチバレーコートを活用した健康増進を目的に企画されたもので、ビーチバレー交流のほかにボクシングとエクササイズを取り入れたフィットネスボクシング、新体操のリボンを使って体を動かすリボン体操、ヨガを取り入れた健康体操などが行われました。イベントは月に1度行われ、8月26日と10月8日に開催されたビーチバレー交流は、講師にビーチバレー全日本選手の方々などを迎え、基礎練習や試合形式などを行いながら、参加者は全日本選手と交流しビーチバレーを楽しんでいました。また、9月23日は、トップアスリートなどを育成する「(一社)川崎ビーチスポーツクラブ」の方々と、フィットネスボクシングやリボン体操などの健康増進イベントが行われ、参加者は健康への意識を高めていました。イベントを主催したクラブマネジャーの平山真恵美さんは「ビーチバレーコートはバレー以外にも活用できるので、多くの方々に利用していただきたい」と話しました。ビーチバレーコートの利用申込は、只見町地域創生課(Tel0241-82-5220)までご連絡ください。



▲ビーチバレーコートの砂地で負荷をかけながら体を動かしたフィットネスボクシング



▲全日本選手の方々などと交流しながらビーチバレーを楽しんだビーチバレー交流

町長スケジュール

(10月分)

- 1日 会津総合開発協議会南会津地方部会県要望(福島市)
- 4日 辞令交付式、只見ユネスコエコパーク連絡調整会議
- 6日 自然首都・只見 水の郷うまいもんまつり
- 7日 河井継之助没後151年祭法要(長岡市)
- 8日 全国ブナ林フォーラム実行委員会
- 9日 一級河川只見川河川整備促進期成同盟会福島県要望(福島市)、六十里越雪わり街道を愛する会交流会
- 10日 会津鉄道・野岩鉄道次期経営改善計画(案)説明会(南会津町)
- 12日 福島財務事務所長来庁
- 13日 只見高等学校振興対策会議懇談会
- 14日 只見町駅伝競走大会
- 15日 (株)季の郷湯らり取締役会、定例庁議、
- 16日 福島県議会副議長来町、南会津地方若手職員研修
- 17日 八十里越道路工事進捗状況の視察及び交流懇談会(三条市)

- 19日 区長連絡協議会研修会
- 20日 町内小学校学習発表会、全国ブナ林フォーラム(～22日)
- 21日 河井継之助杯只見剣道大会
- 22日 福島県生活環境部長来庁、南会津建設事務所長来庁、金山町長就任挨拶来庁
- 23日 福島県鉄道活性化対策協議会要望活動(新潟市)
- 24日 只見町金婚夫婦表彰式
- 25日 議会10月会議
- 26日 2022年全線復旧!つながれつながれ只見線応援特別列車
- 27日 只見中学校紅葉祭
- 28日 只見地区JAまつり
- 29日 福島県鉄道活性化対策協議会要望活動(仙台支社 他)
- 31日 お楽しみ昼食会

町民の消息

(9月26日～10月25日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

山内 杜生 (男/政邦・裕子) 梁取
酒井 一 心 (男/一行・敦子) 黒谷
遠藤 菜乃 (女/拓人・彩) 小林

■おくやみ申し上げます

山田 嘉代子 93歳 長 浜
横山 ミエコ 85歳 舘ノ川
渡部 郁朗 72歳 福井
小沼 ユリ子 79歳 福井
川原田 カツ子 65歳 小林

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成30年10月1日現在

人口 4, 245 (ー 11)
男 2, 087 (ー 7)
女 2, 158 (ー 4)
世帯数 1, 864 (ー 5)
高齢化率 45. 74%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 1 転出 9 出生 0 死亡 3

▽今年の秋は、「クサムシ(カメムシ)」が大量発生しており、我が家でもクサムシ駆除に追われています。クサムシについて調べてみると、只見でよく見る黒いクサムシは「クサギカメムシ」という名前前で、秋になると越冬のために家屋などに集団で飛来し、2mmほどの隙間があれば容易に侵入してくるそうです。効果的な対策は、やはり壁や隙間に殺虫剤を散布することですが、香りの強いハーブのニオイも苦手、特にミントの香りは忌避効果が高いとされています。ハッカ油で忌避剤をつくるとカメムシ以外の防虫や消臭効果も期待できるようですので、興味のある方はお試しください。

(三瓶)

あとがき

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

生涯学習サポーター
五十嵐愛

只見振興センター
図書室 ☎82-2141

おすすめ新着図書

★写真が語る 会津の100年



株式会社いき出版/企画・制作
(いき出版)

会津地方の100年の出来事や町並み、生活の風景を貴重な写真で見ることができるこの1冊は、今秋に限定2000部のみ発行されたものです。個人所蔵の写真から選りすぐりの600枚が掲載されており、写真提供者はなんと170名以上! 地元の専門家による詳しい解説付きで当時の暮らしがうかが

い知ることができます。

只見町の写真も数多く掲載されているので、家族と、友人と、皆さんと眺めてみてはいかがでしょうか?

★沈黙のパレード



東野圭吾/著(文藝春秋)

第1作『探偵ガリレオ』の刊行から20年——「ガリレオ」シリーズは福山雅治主演でテレビドラマ化もされた東野圭吾の人気推理小説です。

シリーズとしては6年ぶりの発売、第9作目となる今作は、突然行方不明となった町の人気娘が遺体となって発見されたことから始まる。

容疑者は彼女を愛したふつうの人々。哀しき復讐者たち渾身のトリックが湯川、草薙、内海薫の前に立ちちはだかる…。

★その他にも図書コーナーにはたくさんの本が置いてあります。リクエストも随時受け付けていますので、ぜひご利用ください。

「げっ歯類の貯食行動」



▲只見に生息するアカネズミ



▲只見に生息するニホンリス

只見の森にはニホンリス、アカネズミ、ヒメネズミなどが生息しています。これらのげっ歯類は餌が不足する冬季の食料を確保するために、秋に落下したコナラやミズナラ、ブナなどの堅果（どんぐり）を地中などに隠します。この行動は貯食行動（キャッシング）と呼ばれます。樹木から直接地面に落ちただけの堅果は、捕食や病気による死亡率が高く、また、母樹によって光が遮られるため発芽しても成長が困難です。貯食された堅果の多くは回収・捕食されますが、一部は回収されず、条件の良い場所に運ばれたものは発芽・成長します。また、げっ歯類は堅果を地下5cmくらいの地中に埋めることが多く、これは結果的に堅果を乾燥や捕食者から守り実生の定着を助けるものといわれています。さらに、樹木が分布域を拡大するためには、母樹からより遠い場所に堅果を運搬してもらう必要があります。このように堅果を貯食するげっ歯類などの動物は、捕食者であると同時に種子散布者としての役割も果たしています。

今年の只見地域は、ブナやコナラ、クリなどブナ科樹木の堅果が豊作年と見られます。この季節の森の中では、ノネズミなどのげっ歯類が、堅果をせっせと集め、運び、貯蔵する姿があり、こうした行動が只見の森の形成に大きく貢献しています。

自然観察会

「ただみ観察の森」観察会

第3弾「黒沢のコナラあがりこ林に行こう！」

と き：11月17日（土）午前9時30分～正午まで

集 合：ただみ・ブナと川のミュージアム（午前9時集合）

観察地：「ただみ観察の森」黒沢のコナラあがりこ林

※イベントの詳細情報はブナセンターホームページか「おしらせばん」をご覧ください。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください